

令和元年11月15日

保護者の皆様

吹田市立西山田小学校

校長 鬼頭 孝雄

## 令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査です。今年度は、国語・算数の2教科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果

#### ●国語《概要》

◎国語 ⇒ 全国の平均正答率を、上回っている。

☆各領域における成果と課題

#### 話すこと・聞くこと

- ・話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をしたりすることについては全国値をやや上回り、目的に応じて質問を工夫することは全国値を上回っている。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることは全国値をやや下回っている。

#### 書くこと

- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉えることは全国値をやや上回っている。
- ・情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の工夫を捉えることは全国値を上回っている。

#### 読むこと

- ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことは全国値を上回っている。

## 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・学年別漢字配当表に記されている漢字を文の中で正しく使うことができ、また文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くことは全国値を上回っている。
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることは全国値をやや下回っている。

### 《国語科における成果と今後の指導の改善点について》

国語の「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて質問を工夫したりする力は身につけているが、捉えた内容について自分の考えをまとめることに課題がある。「読むこと」については、目的に応じて文章全体を概観し、内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができている。「書くこと」については、資料を用いたり、情報を相手に分かりやすく伝えるための工夫について基礎的な知識は身につけている。しかし、目的に応じて自分の考えをまとめて書くことに課題がある。理由や根拠を明確にして自分の考えを持ち、それを文章で表現することが重要である。

国語科のみならず各教科等においても、こうした学習活動を積極的に取り入れていく。

## ●算数《概要》

◎算数 ⇒ 全国の平均正答率を、上回っている。

☆各領域における成果と課題

### 数と計算

- ・四則計算の基礎は全国値を上回っている。
- ・計算の工夫は全国値を上回っている。
- ・式の意味理解は全国値をやや上回っているが、十分な結果ではなかった。

### 量と測定

- ・数値を読み取り、単位量あたりの大きさにおいて量感を持つことは全国値を上回っているが、十分な結果ではなかった。

### 図形

- ・台形の定義の理解においては全国値を上回っている。
- ・「同じ長さの辺どうしを合わせる」という課題に対して頭の中で図形を移動させたり組み合わせたりすることは全国値を上回っている。

### 数量関係

- ・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることは全国値を上回っている。
- ・情報が多い文章から計算の手順を考える問題や式の変形した後の意味理解の問題は、全国値を上回っているが、十分な結果ではなかった。

### 《算数科における成果と今後の指導の改善点について》

全体的には全国、大阪府の平均正答率を上回っていた。

基本的な図形や計算問題は解けているが、記述式の応用問題は正答率が低く満足できるものではなかった。自分の考えを文章で表現する力をつけるため、文章の型を例示したり、友だちの説明を自分の言葉でもう一度表現させたりすることを授業の中で取り入れていく。また、情報が多い問題を整理し解決する力をつけていく必要がある。そのために文章を読み、図や数直線など自分が理解できるようにかき表すことを習慣化させていく。

## 2. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

### (1) 自分自身のことについて

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」という設問に対して「当てはまる」の回答は全国値を上回っている。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という設問に対しては、「当てはまる」の回答は全国値をやや上回っている。
- ・「人の役にたつ人間になりたいと思いますか。」という設問に対しては、「当てはまる」の回答は全国値をやや上回っている。

### (2) 家庭生活について

- ・「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。」という設問に対して「当てはまる」の回答は全国値を上回っている。
- ・「家の人と学校での出来事について話をしますか。」という設問に対して「当てはまる」の回答は全国値を上回っている。
- ・「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の設問に対しては、「当てはまる」の回答は全国値をやや上回っている。

### (3) 学校生活・学習について

- ・「読書は好きですか」という設問に対して「当てはまる」の回答は全国値を上回っている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」の設問に対しては全国値を下回っている。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という設問に対しては、おおむね肯定的な回答である。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問に対しては、全国値をやや上回っている。

### 3. 今後の取り組み

吹田市教育委員会では、本調査を踏まえた「学力向上のための主要な視点」として、次の4つの視点を掲げています。

- ①9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- ②授業規律、生活規律の確立
- ③習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導
- ④自学自習力の育成

本校におきましても、これらの視点を大切にし、学力向上の取り組みを推進していきます。学習面においては、各教科で基礎学力の定着をめざすとともに、習熟度別指導を充実させ、子どもたちが主体的に学習でき、友達と学び合う良さを実感できるよう授業改善をさらに進めていきます。また、家庭学習のあり方については、校内で共通理解を図りながら、学年の発達段階に応じた自学自習力の育成に努めてまいります。

生活面においては、小中連携を図り、9年間を見通した規範意識の醸成に努めます。様々な教育活動を通して、それぞれの良さが発揮できるような役割や場を設けることにより、責任感を育み、自己肯定感・自己有用感をさらに高めていきます。

今後とも、個々の児童に応じた学力の向上と基本的な生活習慣の確立をめざし、ご家庭と連携しながら取り組みを進めて参ります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。